

## &lt;全体分析&gt;

試験時間 2科目120分

## 解答形式

記述式・論述式・描図式

## 分量・難易(前年比較)

分量(減少・やや減少・変化なし・やや増加・増加)難易(易化・やや易化・変化なし・やや難化・難化)

## 出題の特徴や昨年との変更点

全学科共通の設問と、医学科用の追加設問がある。医学科用の設問はやや難しい。

また、数学の力を要する問題や、図・グラフを描かせる問題、出題頻度の低いテーマが出題されることがある。

## その他ピックス

なし。

## &lt;大問分析&gt;

番号	出題形式	出題分野・テーマ	範囲	コメント(設問内容・答案作成上のポイントなど)	難易度
1	問形式	力学 (複数のばねと物体を一直線上に接続した場合の振動の考察)	物理	大学で扱う連成振動を題材にした問題。誘導の通りに変数変換を行えば、解き進めることができる。計算量・記述量はあるので、見通しよく進められるかどうかで、得点が分かれる。	標準
2	問形式 空所補充	原子 (電子線、陽電子線、X線によるブラッグ反射)	物理	前半は、電子線・X線による典型的なブラッグ反射。途中からは、金属の内部電位も考慮する。最後は、陽電子線を用いていて、入射角より屈折角の方が大きくなるため、格子面1で全反射する可能性が出てくる。粒子としてとらえてエネルギーから解くこともできる。	標準

※難易度は5段階「易・やや易・標準・やや難・難」で、当該大学の全統模試入試ランキングを基準として判断しています。

## &lt;学習対策&gt;

基礎～標準的な問題は、素早く確実に解けるように。誘導が少なくても解けるようにしておきたい。さらに、医学科受験生は、様々な応用問題にも取り組み、多様な問題に対応できる力も養っておこう。答案には途中過程も必要であるから、簡潔な解答を書く練習もしておこう。